

(2) ⑤ 小学校生活

育成をめざす資質・能力 ～何ができるようになるか～

生活科では、幼児期の教育とのつながりや小学校低学年における各教科等における学習との関係性、中学年以降の学習とのつながりも踏まえ、「自立し生活を豊かにしていくための資質・能力」を育成することが求められています。

【小学校生活の目標】

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能の基礎

活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力等の基礎

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。

学びに向かう力、人間性等

身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。

入学当初において生活科を中心とした合科的・関連的な指導などの工夫（スタートカリキュラム）を行う。

幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿

⇒ 幼児期の教育

今回の改訂では、幼稚園教育要領等に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考慮することが求められています。小学校においては、こうした具体的な育ちの姿を踏まえて、教育課程をつないでいくことが重要です。

★目標の改善

生活科の前提となる特質と、生活科を通して育成することをめざす資質・能力の二つで構成されています。資質・能力の末尾に「の基礎」とあるのは、幼児期の学びの特性を踏まえ、育成をめざす三つの資質・能力を明確に分けることができないことによります。

具体的な教育内容の改善・充実 ～何を学ぶか～

★内容の改善・充実

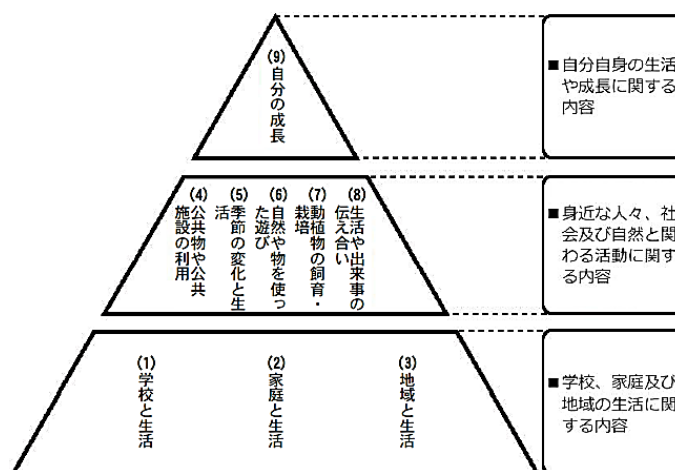
生活科は、具体的な活動や体験を通して学ぶとともに、自分と対象との関わりを重視するという生活科の特質を基に、9項目の内容で構成されています。

○内容構成の改善

学習内容が「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」「身近な人々や社会及び自然と関わる活動に関する内容」「自分自身の生活や成長に関する内容」の三つに整理されました。

○動植物の飼育・栽培

動物の飼育や植物の栽培などの活動は、2学年にわたって取り扱い、引き続き重視することが示されています。



📖 解説 小学校生活編 p.23～28

主体的・対話的で深い学び ～どのように学ぶか～

生活科では、気付きの質の高まりが深い学びであると捉えることができます。「身近な生活に関わる見方・考え方」（5・6ページ参照）を生かした学習活動が充実することで、気付いたことを基に考え、新たな気付きを生み出し関係的な気付きを獲得するなど、深い学びを実現することができます。

《学習過程の例》

① 思いや願いをもつ

具体的な活動や体験を通して、関わる対象への気付きが生まれることが大切です。

② 活動や体験をする

試行錯誤や繰り返す活動を行うことで、気付きの質が高まります。

③ 感じる・考える

気付いたことを基に考え、そこから更に気付きの質を高めるためには、見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動の工夫が求められます。

④ 表現する・行為する（伝え合う・振り返る）

言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法によって表現することにより、無自覚な気付きが自覚的になったり、気付きが関連付いたりします。

📖 解説 小学校生活編 p.74～77 p.90～99